

MABI PAPERは#おかやま
JKnoteの高校生目線で
被災地や支援者の声を
届ける新聞です。

MABI PAPER

TAKE AWAY

発行#おかやまJKnote
〒700-0026岡山県岡山市北区
奉還町3-1-30 SCSG
info@jknote.work
www.jknote.work

被災者の方々の今後の生活は一体どうなるのか!

私達は、夏休みが明けて新学期が始まる中、被災地の方々が今、どのような悩みを抱えているのかを知るために岡田小学校に向かった。

私は、今回初めての取材となる。その中で被災者の方とどのように接したらいいのだろうという不安を抱きながら現地向かった。真備の印象としてはテレビで見ていた雰囲気よりかは、少しずつ災害のゴミも減っていて綺麗になっていた。車の移動中にスーパーやお店で「がんばれ真備」と書いてある文字を見つけてすごく心を揺さぶられた。今回は、岡田小学校での取材となる。避難所に入ると真っ先に私に飛び込んでくれた小学2年生の元気な女の子が私に話しかけてくれた。夏休みが明けて、今は岡田小学校に行っているそうだ。2学期になると周りの仲が良かったお友達の中には転校する人も何人かいることを話してくれた。

私は、その小学2年生のおばちゃんである武田さんにお話を伺った。その家族は住宅が一階の半分が浸水。今日は、家の片付けをしようと考えていたが、雨が降り家を出るタイミングを見失ったと話す。その中でこれから冬にかけてどのようなことに不安がありますか?と質問した。

「家の片付けは大工さんが手伝ってくれて前に比べると少しずつ進みました。早くて10月中旬には出来るかなと考えています。でも、床が濡れていてそこで寝てるから子供達が風邪を引かないか心配。今は、暑いから扇風機でかけているけどこれからどうしようか悩んでいますね」と話してくれた。

また、体育館の空きスペースで座っていた73歳の女性にもお話を伺った。普段、この空きスペースはご飯を食べたり、おやつを食べるときに使っているそうだ。73歳の女性は住宅が二階以上の浸水。西日本豪雨の際、息子さんが車で助けに来てくれたそうだ。後一步遅かったら助か



らなかったかもしれないとあの時の状況を詳しく教えて下さった。

その中で今後の生活について不安を抱えることはありますかと質問した。

「仮設住宅は入ってから2年間だけ無料です。ですから、今から新しく家を建て直そうと思っても年金ではほぼ生活しているから厳しい状況なんです。息子は、4人家族で子供もいるため家を建て直すためにローンを組んだけど、私達はこれからどうすればいいのか…不安で仕方がない。」と話していた。73歳の女性の方は、学校が始まると共に体育館の面積も縮小するため、後々は仮設住宅に入ろうと考えているそうだ。

前の家は、旦那さんと2人暮らしで豊かな生活を送っていたそうだ。毎日、田んぼを耕して水やりをして大切に育てていたナスやピーマンも駄目になってしまった。あの頃の生活に戻りたいと涙ながらに話してくれた。

MABI PAPERは9月より毎月2回発行

第7号 10月6日(土)

第8号 10月20日(土)

★掲載希望・配布協力・協賛協力のお問合せ

メール→info@jknote.work

★MABI PAPER特設サイト

https://peraichi.com/landing_pages/view/mabipaper

再建させたい!



連島の仮店舗

【メンズサロントマリ】

仮店舗所在地：
倉敷市連島町鶴新田
1197-5

◆店主よりコメント
自宅兼店舗が全壊、被災し復興までの期間仮店舗です。真備の方が散髪やお顔を綺麗にして癒される場にし

たいと思っています。
よろしくお願い致します。

1. 仮店舗での営業時間

9:00~19:00

2. 真備での復活営業開始の見込み時期

未定（これから家を解体して建て替えの予定なのでわかりませんが来年には出来るといいなあと思っています。）

3. 被災されて苦労されたこと・困ったこと

ドロまみれになった家の中のものを全て出すのに苦労しました。

店も家も全てなくなった事。

物が全部ない事。

4. これからの目標

被災前の生活。普通の生活をする事。

早く真備へ帰りたい。

マビペーパー まびっこ秋祭り

11月18日（日）10時~17時
真備公民館 箭田分館

祭りの企画に関わる

小学生・中学生・高校生募集!

お問合せ：岡山次世代スクール協会

事務局 高山080-3888-9433

takayama@refine-education.info

MABI PAPERへのご協力

協賛金 匿名希望さまより

助成金 日本財団さまより



MABI PAPER web版はこちら→

記者の日・ボラの日

記者の日

今回、2人の女性の方に取材をさせて頂いたが、私にとってとても意味があるものだと感じた。最初は、不安が募っていたが抵抗する必要なんてないということに気づいた。被災者の方にとってボランティア活動や情報を提供してくれることは励みにもなるし、前向きに考えられる。だからこそ、自分自信も被災者の方々が悩んでいる課題について真剣に考える必要があると感じる。情報が拡散しているため、どれが本当の情報が分からないといった問題点も浮上しているそう。その中で私達ができることは、現地に取材に行き、生の声を聞いて被災者の方のメッセージを受け取ることだと考える。高校生達の視点から課題解決のために考え、少しでも被災者の方々の力になりたいと思う。

(安藤千夏：#おかやまJknote3年)



ボラの日

壊滅寸前の家、図書館に積まれたゴミの山、私がタクシーから見た光景。同じ岡山とは思えない。私は真備の小中学生へ学習支援、遊びや会話を通して心のケアを行うボランティアに参加した。子どもと関わる中で私が同じ歳の頃には感じた事の無い”ストレス”を彼らから感じた。そんな彼らの支えとなり、時には歳の離れた友達として話を聞いたり笑顔を引き出すのが私の役目。バイトに旅行に大忙しの大学生の夏休み、明日は早起きか…や自分に何が出来るのかなんて不安に思っていた私が出来る限り真備に何度も足を運び支援をし続けたいと思うように。きっと私の方が皆さんから元気を頂いているんだろうな。最後に子ども達へ一緒に乗り越えていこうね!

(数井香奈：中国学園大学子ども学部2年)

